

(2) ①活 ⑥ ⑤ ④ ③ ②
上性夕てにに道のの市もいへ由検し運数七は宮へ宮合
地化方い近つ整現位政らわ調良討て賃、月きき津運線
の対五るいい備状置のつれ査川さ十を運にびし問存続
所てのを付中てるの鉄れ年基賃業い。対策協議會で
では必どけで引。結橋て後準の試算はどか。宮福鐵道の營業係
宮京要う、の継精果のい黒字に検討、第三セクタと
津都を考下由ぐ算事業定度化とそになるよう方向で
へ通水道、区に団は極めて改めて高いと。
すく起通え、海のなる改修をしと。
べき道。線の交通網。由道下水明網。
だと考え良路。

た バ沢だ予高 て うか てしな「保養地マ
い本ネ山ろ定速又い私大、宮積、るも後の域「宮津市
青日ラのう、自、くはな度やが地が整備法」いわゆる「リゾー
、の」課かだ動宮福鐵道近道あ良地民間資本が将来のための開発だ
壮出に題、が等、道のうう区の将来的な開発だ
の席おが等、道のうう業かのための開発だ
男者願あ々J、R舞のうう業かのための開発だ
女五いる、R舞のうう業かのための開発だ
が十し中私宮線開業かのための開発だ
い名学で達津も業かのための開発だ
つ、習、に線六が、のための開発だ
も一會お直は十七月十六日と決り、
なが一番を二接ど六年十六日と決り、
がら少出も人かう年には全線開通、
ながら少出も人かう年には全線開通、
かつい。ん深る開通、

公民館長 小松忠衛
級序 (63.2.4)

No. 75

63.7
由良地区
公民館

(1) 現で録の関係にいづれも、要点について報告します。
「山下議長」の状況について
(2) ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ①

備 事宮そな近 J 近山近大す未イ通亀交在市下テ関係
業津のさいJR宮宮舞日)舞国舞阪近運定バズ岡京京都網綱の宮津市政
。湾他れ内Rと福津線本大線道鶴戸畿動でスミ・老坂貢自備當面の状況について
波埋のるに宮の鉄バと海川の一間福高をあの～老坂貢自備當面の状況について
路立整予第津相道イの沿間開七、知速進る着次坂貢自備當面の状況について
地事備定三線互七バ関岸の通五六山自めが工にバ自動車道へ京都一宮津)
域業土取り場跡地造成計画。宮津湾流域下水道整乗月ス連続縦縦早に予定、イバス近く開通へ現在開
セクターへ第三セクターとして方向付が入られへ日良川沿い福知山
大阪業須る方向、舞鶴線工事中

小室文雄	中西俊夫
奥野博	公民館主任
中西孫兵衛	由良小学校長
浜野路自治会長	宮本脇
自治連合会長	由良小学校長
自治会長	（順不同、敬称略）
市議會議員	（1）次の方々であります。
小西嶺人	委員会委員
小室文雄	昭和六十三年度　由良地区公民館役員は

高齢化社会を生き抜くために（第三回）

◎第二章 参加する福祉への風土づくりをめざして 1、将来展望の概要 地域福祉の振興は、自主的、自発的なボランティアによる身近な地域社会での

この形を変えることは災害を招くといふことである。慎重に進めてほし
い。

② ゴルフ場に関連する情報は委員だけではなく地域全体に下してほしい。
③ 自然破壊にならぬよう、自然を生かしたものにしてほしい。

④ 現状のみかん栽培では必要経費を差引くと収入は僅か、地場産業の後継者も不安、ゴルフ場は由良にとつてメリットの方が大きいと思う。賛成したい。

⑤ ゴルフ場が地域の活性化か、どちらが先かということが問題だと思う。ゴルフ場の会員券の仕組、ゴルフ場に立つて取組んでほしい。その知識

(2) ① 、さつト祉実ボか の財で 、対活基会 るに福者 福祉のそ活動するよるにボラための盤の上に立つて、婦人、青少年、高齢者を育成して、参加する
・ボれられたが、地域福社の新たな活動が展開され
成ボラランティア、マンパワーの育成と育
協しラしこの強化が望まれる。
政基盤の拡充を図り、地域福祉の中核的機能をもつ社
会の確立、組織の充実や活動体制に
協議会から地元の活性化をめざすに応じた組織的
会の確立保祉育成の会とが必要である。活動のもとには、
福祉を健計画、研修会、市民会議会などに連携して、
協議会、福祉の策定などを意識特性の有する活動を展開する。
区域教化、社会層階の啓発を期しては、
が根柢の社会層階を発生する。

出先につ
発生当延ぼ四
指日期月
た導はと
だに快
恒よ晴
例る、
と準備
つな
つ体ど
て操おり
いをり
る行出
日つ發
がて前
あ後に
い、小
に校室
く庭秀
のを雄

一、 第二十三回
報生口一一、

(2)
綱 第 四 ル 第 ① 体
期男引四二九青一八部六大大部
日女き部月回年般月対月会回月十
は各大対 四男男十抗五
、一会抗五部子子四球日
官チ 男女各一チーム
津ム 大会の日程に合せ決定
抗式フ バレーボール
大午後 一時より
体対天五
抗ソフトボ
ソフトボ
ル
大会

(1) (2)
昭 部部文
文和 員長化幹
公化六 部
民部十吉糸岸中矢森 中山枝奥小
館 三田井田西野本 西田川野谷
だ年愛久 信善松 田訓隆一
よりの發行 度子枝剛好記二 鶴久亮彰郎
行川岸岸田竹 子 山中中
事崎田田中内副 谷下西村副
計美富秀昭義部 口 清富部
画幸恵樹彦行長 弘均治美長
樹樹藤山中山 美 雄
田田本田西田 千 山中坂
楨千貴三隆徹 下西口
子鶴美三光男 正一正宏
子男 男義憲

由栗由学前市上下港
供良田良識公議石石
会老婦中小経民会浦浦
連友人学校学驗館議自自治
絡会会校校者長員治治
協長育友友會長
議會長

はは 発子 た公 朝
か 指揮 え民 から
消ら も 館 から
防ず決育達第れ幹第の第
団も勝友が三ま事二放一
戦会み試すさ試水試
く昨チて合ん合訓合
⑨年消しま
公と防ムす実
民同團、業
館じ対ガお会
対公ゼ父対
決民ンさん
となる、昨
年

二、 参日第
四加時八
チチ回
一一六團
ムム月體
五對抗
日抗ソ
午後トボ
一時三
十大会

し度確行れは安か足雨
ま由認動下に汗全全つが天
し良、な山弁を員のたあで
た岳午のも当か山連。つあ
。登後で三をい頂絡途たつ
山二、開たにを中たた
も時下三きあ到とトメこ
皆頃山、と着りラかと
様に者者五休の憩爽
のは、全国五の後な氣
ご協員宿と下山開始中
力無事舍のルとグル
に事舍の所でブ
により下山で普
無事終本長よ
のね ガ達も意地
のね バル
のね 地を
き

⑪ ⑩ ⑨ ⑧ ⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ②
成無史 同文高 盆高
該一農形由十跡宮ニ治各二九婦一和作十一九齡由八踊七齡年
当月入文良月め津月学地月回人月学品一化月化良月り月化
者十閑化地下ぐ市十級区四会二習展月三懇の二大九懇回
の五式財区旬り政二五部と十会等十祭日談里十会日談へ
確日期保内と日選日対共二三日
認存の予定手五名出場
、当日の世跡を訪ねる
話

レさんがともに歴戦の猛者ぞろ公の進行はたして今年も好ちブ防ら

「婦人フェスティバル」それは女性の社会参加

す由前 面たた区昭一
・良号港脇をのなか和公お
地掲 かでから六民こ
区載中上り、で参十館と
成の西良てこ 加三だわ
人十和み こ次さ年より
式名美の深にのれ り
出の りく追方た宮
席方 お記の方津第
者を へわを名々市七
は合 敬びさ前の成十
、せ 称申せが名人四
十、 はしても簿式号
二昭 省あいれをに
名和 略げたて掲、記
に六 しままだお載当事
なり三 ます。 まま良内
ま年 紙しし地

く出以 の場上
皆選 優三位
手好 勝決定
さん 戰
の試合 戰
皆合 戰
ごさの 戰
苦ん連
労 繼公育公消
さ応で 民友民防
ま援し館会館團
でした ⑩⑪⑫⑬
してく ⑤⑥①②
たく ⑤⑥①②
ださ 消実業育
つた 防業業友
多 団會会

お優い頃
きしだのかい”厚
かえ、ふかまし
共に強めいさ
成なれ“をゲッ
とひど抑え、
長したい”と思
い言葉。い
ますを”に
。女雑
性草し
にはや

健康いろはカルタ

(10)

四方寿朗

り酸く
、素な動
全のれ物流
身攝ばと水
の取、いく
細量もうさ
胞がう字ら
が増おがず
若えし示
返、ます歩
る血い通け
。の。り
心め運、走
臓ぐ動入れ
がりを間
強がすが
くよる動
なくとか
りな、な

てい人で老
来。だ、人悲
る他。いだし近
。人常ざけいく
逆へ日とがかの
もの頃い由な他
ま思かう良人
たいら時と最
真やの頼い近子
なり付りう若よ
りがきに所いり
。何合な帶人大
時いるがは切
かをの増都
自大がえ会
分切近たに
にに所。住
帰しのそみ
つた友こ、

風う 決をよ食骨
で遅病、欲や
長い氣盜生。が入
き日出を見
。頃て見のかて
養ら急がて大
切薬を服ん
こわい。も
中も

ゲートボールは
世代を越えたフアミリースポーツ

全こかとつ二人
国ととらい地て十さゲ
でくが高う面考二れ
四にで齡、に案年たト
0高き者が静さ当スボ
0齡ままん止め時ボ
万者すでたした北トル
人の。あんた国海ツは
を間越で愛好され
いう、人競技入
ス人ボロ
トは

らなボ産道と、
ゆブーのの思そ由
るレルス鈴わの良
世トをボ木れ名ゲ
代でストさが称ト
のすテツんちかトボ
人かイだとでらボ
々らツそいす外
が、クううが國
樂小でで人、か同
し学打すに昭ら好
む生つ。よ和移会

姓 人何せと多つアラ方控聞い事た感た女ツミン
。日こ事をな忙てルれのええ明に、が安のタ人ド爽
”焼そに求くを、いま熱、まる両家作堵より寄はや
かや、もめ、嘆明のし意各しく立事り感うのれ、か
わ明心”た悪いる文たと分た強さを出とな霧ば力な
い日身意い戦たさ字。そ野。かせ取す宮は囲コラ天
らの共欲と苦りをが”れでゲな、り笑津し気わフ候
し疲に“思闘、添、一に責、現ししいのやでいルに
され健”いの見え恵人応任ム代かき声婦ぎしもな恵由
“が康実ま中せてま一え遂の女もりな人声たの女ま良
も氣美行すにかいれスる行一性自、のの。無性れ婦
失に入。“。こけまたボ会さつの己外で輪母テしの、人
ななど”家そのし現、員れ一健主にしに、ン“活日会
いる言継族、息た在ツとてつ康張仕よい妻トと気曜
たのえ続の本抜。の“のいに的も事うるかか言で日山
くもる“健当き私生の一るもな忘を。とららう溢の下
なそのを康のにた活鮮体役、表れ持そい解起表れ島よ
いこで目をし走ちとや感員国現てられう放こ現、崎し
とはすぎ願あるは重かがの体にい、は満さるが”ゲ子
日女。すいわこ、なな見方をもな見ま足れ少ビ女ラ

忌良し区れ視に何感 憲得事連民をえ選でと事会とのをり
憚のい民を野託明千し今らまの合大結今る拳自思とも誓前誓ま
のま自の土にする万た度れし内会会成回の民治い同無うでいす
なち然熱台立由い円このたた容かのし、での体まじいの「ま。
いづと意につ良自のと運の。をら開て私す意のすで由が皆す会
御く歴をみての治道は動でや直一催多た。志長。は良普さ。社
批り史育ん自未だ路、ですつ接七を数ち
判のをてな分来と工現多。と区月要のは
を第生るで自図い事在く
お一かこ力身をうよの入
へ待歩しとをで事り由人々
六ちだたで合見他で先良々
十しと、すわ、人すににと
三ま私人。せ聞に。一接
・すは情こてき任将誰番し
六。信味れ行、せ來に必て、
・じ豊こ動考ず、で要、私
まかそすえ、子もな私
すながる、広や分のが
。由美、そい孫かは痛

馬在所勤務となつて

ねに、外外等れいりしき事もといで
まが一不被出未がこてて一にがさくそ事一なえ勤務は、する今年三月由良駐在所
たい一審害すす然發れい逮件よ経ておの故舉ればば、する多本でにも有なつたわねに伴い、富士夫
管内に生かからら、これましが着任します。これまでの年も例年とおり、夏と
おいても悪質商法の被害が発
するうたし止るうた時て隣りに一言声をかけから、
ます。かるうや見慣れない顔をした者
駐在所へ連絡する様にお

加ム ।す と て つ ト 人 大 と
公しをおル、こ由所いそたル親人最い一一一一一
民てつ年ははの良属るこイ！善の近つ、、、、、、
館みく寄年じ由老すかでメ 試チでた 豊健マ社技ル
でらりり寄め良友るで、」あ合」はこか康ナ交術「これ
もれ世もりにで会チす私ジれなム各となの！のル
、ま代若だも、チ」がたもはどを地が社維が場追がも
チせをいけ書会「ム、ち変年もキであ会持身を求簡で
「ん越人のき員ムは現のつ寄開リ、げづ増に与に樂し
ムかえもスまたが、在地てりかキ小らく進める
づ。た ポし九あか宮域きのれり学れりに役
くりの手助けにと、 交い」た名りも津でつ楽た舞生てに役立
りの手助けにと、 流かツよ余まめゲはつしりいだい役立
つのがでうさす会「どあみしさける立つ
場ではにび。」トのるやてせのよつ
つすあ、し 会ボよよ：「たチう
くかりゲい 員「ううミゲり」で
くかり、ま「こ 十ルにで「」ムす
にチセトと 九協なすとト社が。
参「んボで 名会つ。いボ会、

一投稿

駅前の桜と私たちの自治

四方寿朗

辞書を引くと、「自治とは自分で自分の問題を処置すること」とあります。又日本の憲法は其の前文で、国政の主権者は国民であることを明確に規定しています。野路自らがこのことを、明確に規定していきます。

今回駅前道路改修工事計画に際して、浜縁と遠いものでした。地方自治連合会の、これまでに自治の精神とはおよそ多くの区民の願いを無視して府事務所の計画を、お上の命令とばかり区民に押しつけようとした。そもそも、自治会長は営利を目的とする会社の社長とは、根本的に異なる

ゲートボールの講習会を開いてもよいとのことです。

に田 能り水て なはし他そし馬 からる殆の請名城の操る
畠女与率降のる先が二な入れて鹿そり親れ初ど盛は人壁条件土
一の房作をり出事づら入くにに一者れか類ため 況是芸の件し台
度耕のさ上のるで仕の三て見 度だを 縁時て中振非は如は の
は作仕んげ時處あ事合脚は捨信言「知仕者は夫西り私 く漏立根
一 事のる間とるの意のとて仰いとり事か か与での自見水派石
週その の場 分は苦 ら心出罵のら猛ら作あ山然場しなの
間れ範守即無所丁担 し同れかせらが内も烈 さつ田にのな山巨
分に囲備ち駄を度 夫い意るらばれら容「に祠んたを人良い田石
の最は範六と決由与婦戦しなの後た か一反建の 頼氣い事をを
も 囲四疲め良作のいてら に すら文対設遺現むが事 造選
米大子で0勞 岳さ絆でし 一引永る考のしの作存「出で次つ定
切供あ米をそのんであませ途か年とえ得た相だのとてあはたし
副なのるの無の八のあるつめなな連はてに。談と山 つる仕
食事世。頂く事合泊ろ たて決いれあもも を 田引こ 上田そ
物は話 上しに目るうそ 妻心夫添き体な 云のくの与り普れ
の の よに小かれこ位でのつれにら 打わ石手次作の請を
着一外 仕仕り 屋。をれはあ性た果無な ちれ壁 のさ華の上
替週 事事 石を 知か支る格妻て理い 明ては数田ん麗絶手
え間 はの登清建 りら持 とただば けい 多普のな対に

顔をぼ子しで造朝下丁話なし長目願のし祠ニ水屋なのに当女六の
の減たをな山り早山度はつドいでも身て上入瓶根小降も日の四衣
相ら餅聞がえ食くせそ実ても月 潰にもので の屋る 雨身〇類
もし「いら登べ起ずの際いあ日祠えな 扇行ラ材を頃田天に米
早て つさき 日にるつにのるれ二のなン料建迄普ではの好
鋭息くい下てそ与仕は見 たは完事ばケ小つブ運ての請も 急き
く咳食たか行う作事秋た當 成に 年細た びる仕が 將坂な
別切べ らくとさを祭と時今ニをなも以工 錏 に事終登にを酒
人つさ奥風 んしり云ので人見るし上も小 床し るら苦登
にてそさに山近のてでう世ものると私は出屋釘板てそ ね難つ振
見登うん乗上所好ゐあ話相 間ま が 来さ 、もれ六ばのてり
えつとにつのにきたつ等はおにで自倒かるえ仕窯 に月な の分
たて すて与子な た 幽年ははられゝ あ事造雨初末ら連 け
来途る聞作供 一があ靈寄 とをたるこれ道り露め頃な続食荷
与た中とえさをぼ方 つやりこ 励なだのば具 をのかいで糧物
作のの るん預た奥与た化のん決まらろ調雨等出凌年ら あ補に
さだ休折 はけ餅さ作時物笑な意し う子のの入ぐは 又る給し
んかみ角祭 「んさせ代がいエし 夫 で日運口藁 み期 のて
はら回のり仕急をはん 出話ピたこの女計は搬の葺簡ぞ間例役も
数 一囃事い は るとソ の念房算 は戸の单れ的えは

「投稿」

平
間
克
巳

特い を を そ 生
にま最開現忘十九 八七六五四三二一のあし
氣す後設在れ 、 、 、 、 、 、 、 時のて
を 。にし 、 すあ契いサ迷し勇あもお何に手い
つ国 て京守な約 イツツ氣やうかのはこま
け道國い都つたは ンたこ出しかし用 のす
るを道ま府てでし しらいしいりい ? 悪手。
様横にす警下すて て 、 な 、 ぞまとし質と
お断お でさ ! も 、 一 、 は 、 す思つセ巧
ねすけ はい自 あ入そつ人 。つかト妙
がるる 「 分お とでんきのそたりルに
い時交 惡 あんきなりフン時聞スな
しや通 質 しま相言トなはこ つ
ま通事 財 まず手うコ言 、 う一 て
す行故 商 つ は 、 口葉ド 、 0 い
。すも 守 たま一いをにア身力ま
る多 一 はす一り聞 、 を分条す
時発 0 の は も相りまくご開と の
はし 番 う談番せ業用め用 で
、 て 、 遅 ん者心て件

め求 面山 たしを木与 呼さ家良 一 代 一 与てな明るとが更の
高め生積田元 な覚造作虚称んは山青の虚作 が治 。へ求に裾愛
さるきの造來 くえの一空しも 如葉山空夫建ら初 福め標野し
て 祠家藏 信意山岳藏妻ち微年こ徳る高がい
は何はは菩村佛仰寺松宗菩で続動以の 、 六 雜
ん朽必薩民道心「尾教薩あけだ来虚の全四集を
虚とちらのかににと寺の鎮るても 空虚て0落守
空かるず祭ら帰篤し「盛座 いせ幾藏空の米をる
藏し姿 礼慕依くて 、 な 、 そるす多菩藏物の大
菩てにおがわし子栄 一 頃のも の薩菩を由き母
薩 参由れ 供え世 歷そこ百暴の薩 良く鳥
様永拜り良た晚はた屋修史もの年風鎮「自岳包の
に持みし岳。年一 山駿は由祠の雨座が在のん翼
相ちつた山毎は人特成者吉良を風 ま に頂での
済すつ 頂年 一 娘に相のく岳建雪地し見与上い如
まる そで三与で中寺道 にたに震ま守えにるく
ぬ祠心の行月作 西「場奈於人殻にすつるは
とをに度わ十尼そ与 、 と良け 然攢祠てへ
思建痛びれ三「の作 、 し朝る中とさは下知衆
つ立みにた日と娘一由て時 西しれ さ恵生)
由良岳

しいのべ宮賣評はい如十七四一て 居沢みえ清つつ名のそ
よな若制て津名を云た来、虚又な山つなめたたにこ願の
戒ういし定も市的叩えも 弥薬普不空祭いのけが 古がなれが石
名かだかなら役でか の十陀師賢勳藏礼。舟たら海老 つが叶を
ろしくつ所なれ経と三如如菩明菩日
幸うた たのかな済思、來來薩王薩の
郭いからわが職つが的う虚 様十
然にと か 員たらに信空十八五二は三
自も 松ら明の故 も仰藏一、十日
性見尋原な治方か立恵心菩、觀地釋三や
信つね寺い拾に 派まの薩阿音藏迦仏十
士かたのと年与知なれ篤 閃菩菩如中三
へりら過の頃作ら祠すい以如薩薩來の參
与ま 去事はさなを 中上来 十り
作し佛帳で んい完心西十九六三三の
事た縁にあ未の人成な与三十、番十
と残つだ事がしき作のニ勢弥文目三
申つた戸を多た人夫数、至勒珠にに
して。籍 いがに妻が大菩菩當つ
ま 法調 惡とつ日薩薩薩るい

御西名戒立
冥与も名ち
福作無は死戒死
を御くつ亡名亡
夫 格て
祈妻貧調
りにじの下明即明
あく高つ治心治
げ改 いた十戒十
るめ美 藤九如年
てし立原年信二
く派慧二女月
此死な等月へ二
処ん戒師十与十
にで名日六作九
行だく日妻日
謹つ
んた この
で 中

由良の歴史と文化財

(3)

わ小 目入にの深を で
れ谷そをるが建にい訪 兵私
たさの見とまで始俊れ極庫は
のん時は、つらま乗ま楽県、
で、つへられり房し山南昨
す由中た像れた、重た一部年
。良嶋。高ても淨源。淨を八
先の利 五いの土がこ土廻月
生お雄 、まで堂薬の寺り、
は地先 三す、は師寺、ま文
、蔵生 メ。此建堂はへし化
修さが トがに三淨快野。保
理ん、 、年土慶市そ護
がの、 、こ阿へ堂と清の審
終顔こ の弥一をつ谷と議
つだれ 荘淨陀一創な町き会
て。は 、嚴土三九建が、の
如、快 意と慶 さ堂尊二しり 研
寺言だ 、に像たの 修

でに中土米九 餅の次ろ園をつま を餅 なた 点が人に
祠 央止ニ米祠 ぼの姿道見たつ糞突 与が上奥えまし女少の
の頭の石壁〇六ののた食をが降のたのきと作らえさてだ にし足
周の基段は粳〇規味餅糧見見ろか狐匂差見さーにん殿董俺化似音
團部礎へ与の粳模はに補るえしとでいしてん言 はり疊はけてに
は分台一作立 は 給とた明思なは にもぼ 殺はお い氣
はか米さ方從由格か日 治つかせ鼻落す蝶た暫すし前然るが
祠兜ら巾ん体へ良別ぶに立小初たつずのちらら餅しそて達もがつ
を式 の得の南側だり謝腹走年がた 所てばずー阿とい等女達き
守で祠七意祠北をつつるしり頃 の餡迄い を然 なけ房う
る の段のの正たいよてではそかの持た糞下置と恐いだに 上
が風頭、石基六面ろたりい急入れ 甘ち細で山きししそも化さを
如をまあ積礎米とう 仕るい家で正い上いこし てい のけて向
く切でりみで六し。こ方だでがも真匂げ枝した阿 形早にるはい
る であ〇 のなろ帰疎半正が でら。呆立相くと入た
願為ニコ る粳横 日しうるで身銘す匂へえ らちで逃驅はの途
いの米の正 、へ 石構の台面周高東 のとと女 半のるをぼた し竦立てさと云端
一思房帰疑家 噛た くみちなれ う
がえ高場に囲さ西 ぽ折つのるで内へぐ餅ぼ 思 上 ん早 女
積かさ上はの一 た角た後田下だしが いた い石つ捕ぞ合狐房

数 九九 高の たを岳九日 なさ な 一〇 が下聖 灯み
え早米米由く念更 、感登日にこのれ古崩つ表千粳祠縮動の祠籠重
年速高高良し願にとじ山 もうにて老れて面個にのる、如のがね
十 いく岳たが、手 は由 し いのす 石以 台工 く姿一て
三虛青 のいあ与を、良泰て石た話 土壁上使座法水 はつあ
才空葉東南事つ作合又う公然 をとで祠留とでつなの平時 立る
の藏山にでたさは今ら民自完担のはをめ あて周の動にまつ
子菩が丹赤あんす年ら館若成い事 守のそろい園か はるて又
供薩あ後岩つそに、もか、ししで 小る役れうる三 が烈でい祠
に様る若山たれは実元な由対た登然屋。をを 石一祠裏風敵るの
に。狭が。は に氣春良處祠つし附 果支工數米につをに。西
石 、境あ 由祠神に日登すはた八近 すえ法は四崩て切一
を願 にり 良の秘 和ろる と合に するは 〇れもり分
持 、岳外的お うが烈は目多 そ 田大粳が 裂の隙
つを 由由 少 祠り悲共毎の驚らの た込請合高いす も
て懸 良岳 シもで出溢催年吹く 石 め石とせさ ます震せ
参け より でうあ来れの四くば急が 台が同一一 座楔じ 米 基のぬ
ら結 五二 も一るまる由月寒か勾集 がとで約二 種上剣 石

※参考書
「日本の中世都市、鎌倉」(N.H.K市民大学講座)
「日本の美術」(至文堂刊) No.七八
「極楽山淨土寺」(兵庫県教育研修所編)
「日本の宗教」(岩波ジユニア新書版)

「あとがき」
次回からは山椒太夫伝説に関連してどんな歴史がわかるだろうかということを考えてみたいと思います。
おとしよりの方々にお願いしたいのですが山椒太夫について何処にはこういう言い伝えがあり、私はこんな話をお父さんやお祖父さんがから聞いたといふのがあります。一報下さい
(小谷)

JR丹後由良駅よりお知らせ

宮福鉄道の開業に伴い丹後由良駅列車の発車

時刻が一部変更になります 7月16日より

(1) 新しく運転される列車

下り 6:39 宮津線経由福知山行 7:52

上り 20:10 西舞鶴行 21:35

(2) 時刻が変る列車

下り 21:35 丹後山田行は 21:40 に

上り 22:08 西舞鶴行は 22:11 に

りがてし作わすが いかと 思なは地のつ 同せ のへ見て訳に
のあ かのれがな奈たさし東え、思蔵もて勿じて由こ東せいで帰
品る如し一る、く良とはて大た同えさのも論美も良と大てますえ
格も意、つ東そな、い、も寺のじまんで、しらへが寺もせ。つ
をの寺そで大のつ東うそ、ので位せのす技東さい帰思「らん私て
もでのれあ寺供た大これ如地すのん間。術大とについにつではき
つはそよつの養の寺とと意蔵
たあれりた地のは等だ、寺菩
もりがもこ蔵た、再とすの薩
のま、前と苦め建興思でそが
でせ作には薩に永にいにれ、
あん品作、像、元盡ま通の快慶
ろ。とら間は快年力すずも慶
う矢し違、慶へし。るつ作
と張てたい快が一た
思りそかあり慶作二俊
い、んらりのつ〇乗房
ますなとま最た六房
すれにいせ高と
。な差つん傑いで源

快慶は、建仁三年（一一〇三）東大寺南門の金剛力士阿形像を作ったという記録がありました。その胎内に墨書銘があることが確認されました。そしてこの頃に「法橋」の位を頂いていました。その後、「法眼同四」の年に一につきに昇つて、「法橋」の位をまかせられました。元二年（一一〇八）四月から、何時何處に死んだのかは、まだ確定的ではありません。